

平成30年7月13日

お知らせ

資料提供先 鳥取県政記者会
鳥取市政記者クラブ

千代川の治水事業効果について

～平成30年7月豪雨における効果（平成30年7月5日から8日）～

千代川流域では、平成30年7月5日から8日にかけての梅雨前線豪雨により、7月5日～7日の72時間で、流域平均累加雨量410mm、千代川の智頭雨量観測所では累加雨量483mmを記録しました。

この豪雨により、千代川水系の千代川袋河原水位流量観測所（鳥取市河原町袋河原大字袋河原字中古川448-2）ほか3観測所で、**避難判断水位を超過する洪水**となり、鳥取市において避難指示等の避難情報が発令される状況となりましたが、これまでの河川整備により千代川の決壊等による被害を防止することができました。

○発表資料（千代川水系千代川及び袋川における治水事業の効果及び水防活動）

① 堰ダム整備による袋川の水位低減効果 資料－1

堰ダム流域では、7月5日7時から7日20時にかけて累計360mmの大雨となり、ダムへ最大83m³/s流入したが、そのうち、74m³/sをダムに貯留した。ダムの防災操作により、袋川中郷橋付近（鳥取市国府町宮ノ下小学校付近）において、約30cm水位低減したと推定される。

② 河川整備による千代川の水位低減効果 資料－2

千代川佐貫橋付近（鳥取市河原町佐貫）において実施した徳吉堰改修と河道掘削により、約0.49m水位低減したと推定される。

③ 洪水に対しての事前対応 資料－3

袋川湯所橋付近（鳥取市青葉町）において、洪水に備えた事前対応として防水板の設置を実施した。

④ 災害対策車による支援活動 資料－4

清水川排水機場において、排水ポンプ車による内水排除支援を実施した。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

TEL 0857-22-8435（代表） FAX 0857-29-8548

副所長（河川）

かたよせ ひでき
片寄 秀樹

【担当】

河川管理課長

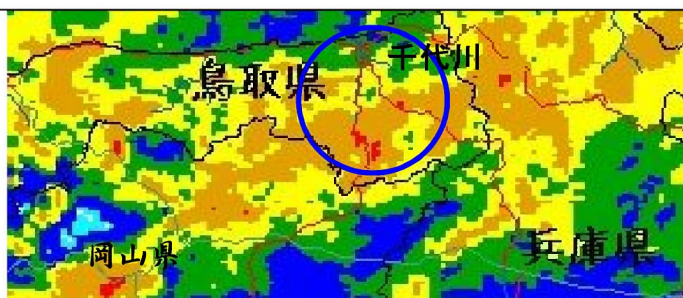
さの たかゆき
佐野 孝行

治水事業の効果(速報)

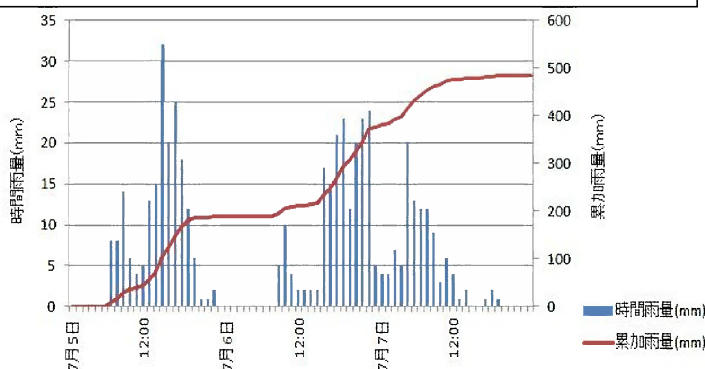
～平成30年7月5日からの大雨(鳥取県 千代川)～

日本付近に停滞した梅雨前線や南からの湿った空気の流れ込みの影響で、6月28日～7月8日にかけて西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。鳥取県千代川流域では、7月5日～7日にかけて、流域平均雨量は410mm/72hrにのぼり、千代川・智頭雨量観測所においては483mm/72hrに達した。

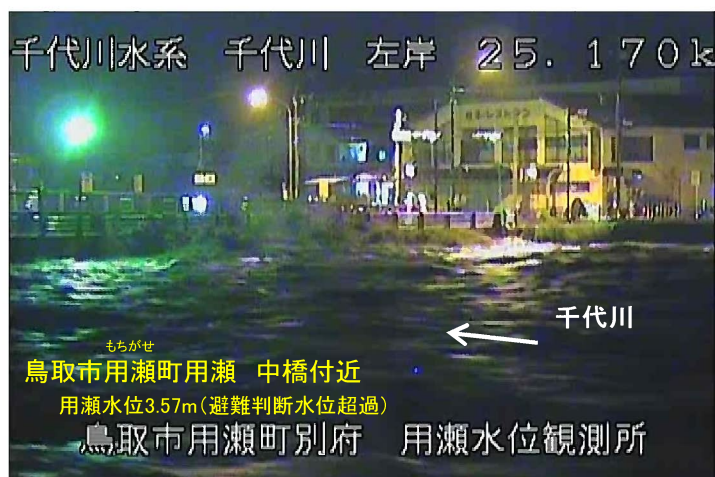
レーダー雨量(7月5日15時)



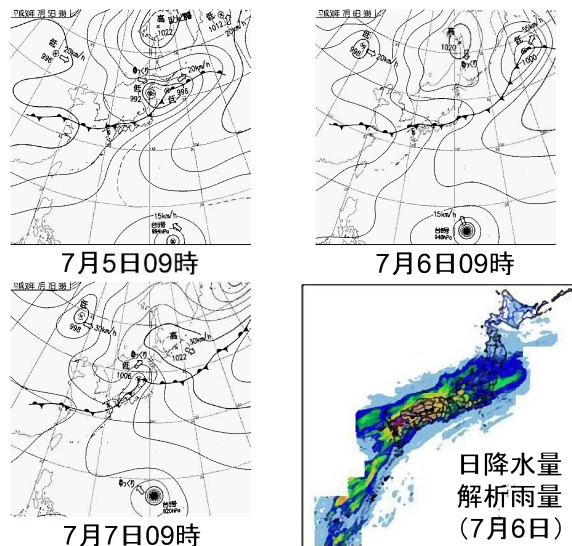
雨量状況(最多累加雨量の智頭雨量観測所)



出水状況(7月6日 23時50分頃)



天気図(7月5日～7日)



等雨量曲線7月5日0時～7日24時(72時間)



全国の一般被害状況

(消防庁調べ速報20報(7月12日13時30分現在)より抜粋)

死者	183人
行方不明者	38人
全半壊一部破損	776棟
床上浸水戸数	8,293棟
床下浸水戸数	15,081棟

鳥取県の一般被害状況

(消防庁調べ速報20報(7月12日13時30分現在)より抜粋)

一部破損	3棟
床上浸水戸数	8棟
床下浸水戸数	52棟

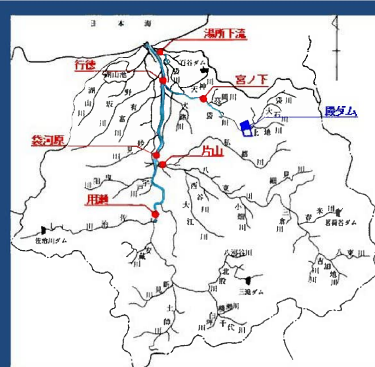
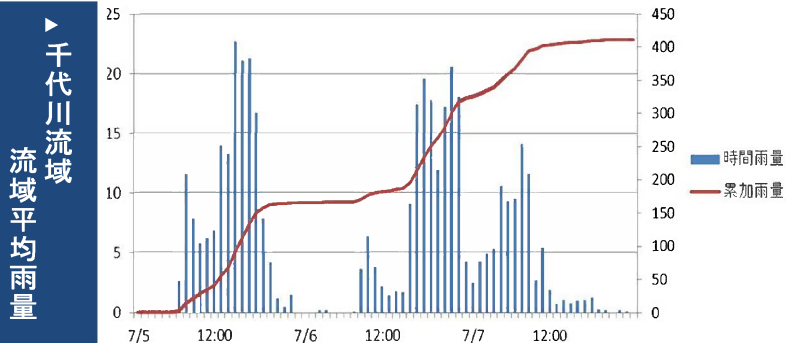
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

千代川水系 千代川・袋川・新袋川・八東川 国管理区間河川の水位概況

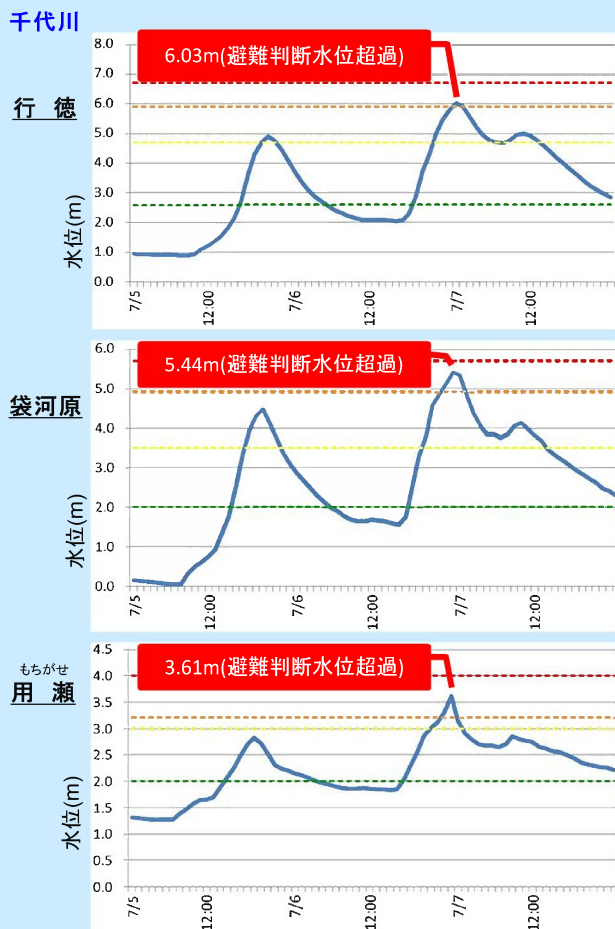
- 鳥取県千代川流域では、7月5日～7日にかけて大雨となり、流域平均累加雨量410mm/72hrを観測、袋河原水位観測所（鳥取市河原町）ほか3観測所で避難判断水位を超過した。片山水位観測所（鳥取市河原町）では氾濫危険水位まであと0.1mと迫る水位となった。
- 行徳水位観測所における最大流量は約3,200m³/sであり、既往第6位（戦後第4位）の洪水であった。

千代川水系 主な洪水

	発生年月	成因	行徳流量	
主な洪水	大正7年9月	台風	約6,400 m ³ /s	既往第1位
	大正12年9月	台風	約5,700 m ³ /s	既往第2位
	昭和51年9月	台風17号	約3,300 m ³ /s	既往第5位
	昭和54年10月	台風20号	約4,300 m ³ /s	既往第3位
	平成10年10月	台風10号	約3,600 m ³ /s	既往第4位
	平成16年9月	台風21号	約3,200 m ³ /s	既往第6位
昨年の洪水	平成29年9月	台風18号	約2,900 m ³ /s	
	平成29年10月	台風21号	約2,100 m ³ /s	
今回の洪水	平成30年7月	梅雨前線	約3,200 m ³ /s	既往第6位



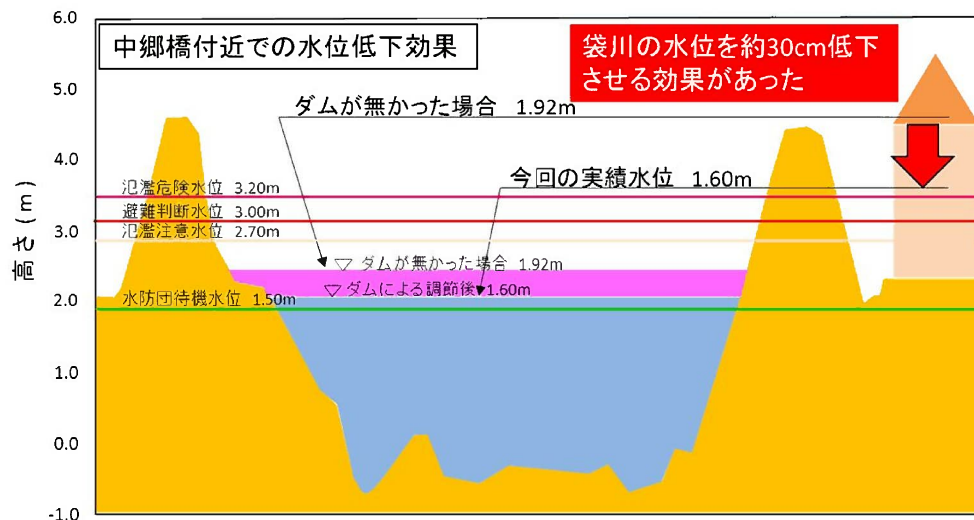
水位観測所における水位経時変化（7月5日～7日）



※数値は速報値であり今後変わる可能性があります。

との 殿ダムの防災操作による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

- 平成30年7月5日から梅雨前線による豪雨によって、袋川で洪水が発生。
- 殿ダム流域では、7月5日から7日にかけて累計で360mmの大雨となった。
- 殿ダムへの最大流入量は毎秒83m³であり、そのうち毎秒74m³をダムに貯留。
- 今回の雨により殿ダムが貯めた洪水の量の合計は約1.52万m³。
- 殿ダムによる防災操作で、袋川中郷橋付近(ダム下流約10km、鳥取市国府町宮ノ下小学校付近)では、ピーク水位を約30cm低下出来たものと推定される。



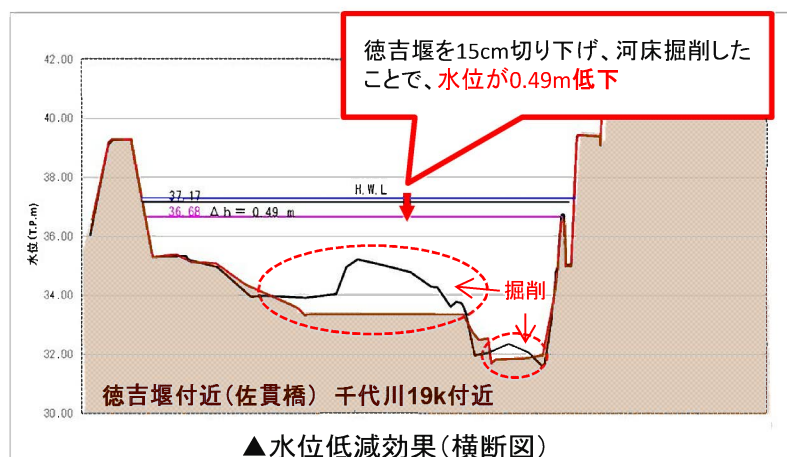
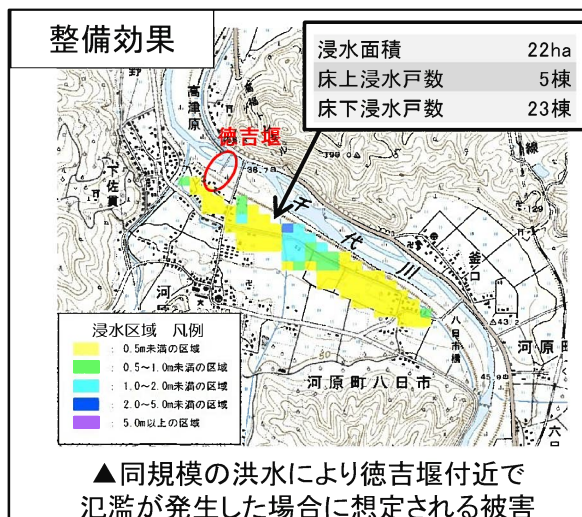
今回上昇した水位 約5m



※数値は速報値であり、今後変わることがあります。

河川整備が効果を発揮(鳥取県 千代川水系千代川) (国管理)

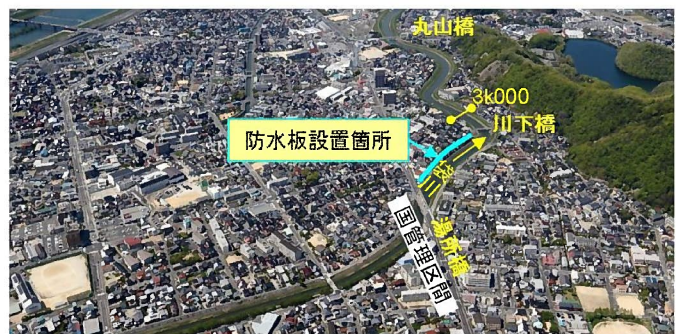
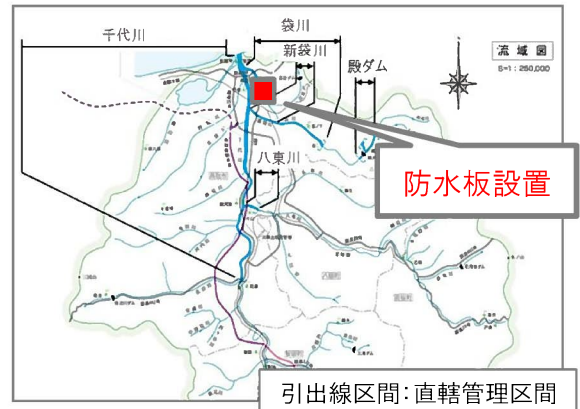
- 千代川では、平成26年から堰改修と河道掘削を行ってきたことにより、19.0k地点(鳥取市徳吉地区)では、**約0.49mの水位を下げる**ことができ、**水が溢れて堤防が決壊する事態を未然に防ぐ**ことができた。
- なお、今回と同程度の規模の洪水により徳吉堰付近で氾濫が発生した場合、約22haの浸水が想定される。



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

防水板設置による浸水被害の防止(鳥取県 千代川水系袋川) (国管理)

○堤防高の不足している袋川左岸(鳥取市青葉町地先)^{あおば}に防水板を設置することにより、浸水被害の防止に努めた。

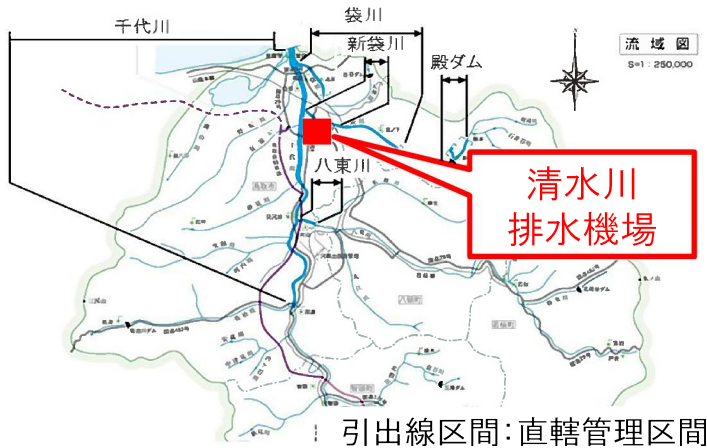


防水板により洪水の堤内地への越水を阻止

排水ポンプ車による内水排除支援(鳥取県 千代川水系)

せんだい がわ

- 鳥取県管理の清水川排水機場(鳥取市吉成南町地先)において、排水ポンプ車による内水排除を実施した。
- 排水ポンプ車の稼働(約10時間)により、**18,480m³の内水を排除**した(25mプール約60杯分に相当)。



浸水状況



排水作業状況



内水(宅地側(清水川)にたまった水)を大路川へ排水